

シャリテ・ベルリン医科大学 遺骨調査結果要旨

2011年9月30日、シャリテはナミビア起源の頭骨20体を、ナミビアからの代表団に公式に引き渡した。旧ベルリン大学解剖学教室（現シャリテ解剖学センター）のコレクションに属していた20の頭骨に関する調査結果を、われわれは以下に要約する。より詳しい情報は、各頭骨に関する書類に記載している。

われわれの調査は、シャリテの人類学コレクションの頭骨から始まった。その最初の目的はこれらの標本の来歴をできるだけ確実に解明することであった。この調査はまだ完了していない。さらに頭骨に関連する記録は常に正確とは限らず、世界大戦の間に部分的に失われており、また植民地期の情報を包括して管理する中央機関もしくは文書館がドイツに存在しない。これらのために、ナミビアからドイツへこれまで送られた全ての遺骨の運命を再構成することはおそらく不可能であろう。よってわれわれは、ナミビアに送還された頭骨の20人の運命について、われわれが知っている範囲で述べることができるのみである。

これらの人たちの内、9人がヘレロ、11人がナマである。4人が女性、15人が男性、また1人はおよそ4歳の男子である。ほとんどが20から40歳であった。

これらの遺骨がどのようにベルリンに来たのか？

ヘレロの頭骨の内2体について、われわれにわかっているのは、それ

らが収集家アルトゥール・フォン・グヴィナー（Arthur von Gwinner）からハンス・ヴィルヒョウ（Hans Virchow：ベルリンの解剖学者、高名なルドルフ・ヴィルヒョウの息子）に与えられたことと、ハンス・ヴィルヒョウが、これら2頭骨が「ヘレロが崩壊した時期に由来する」と述べていることである。これまでのところ、これら2体がドイツに送られた状況を明らかにできていない。

残る18の頭骨について、それら全てがシャークアイランドの囚人収容所で1905年から07年の間に死亡した人々のものだということがわかっていく。これらの死者はドイツ植民地の医師により、おそらくはシャークアイランドの第12野戦病院（Feldlazarett XII）で解剖された。彼らの頭は切除され、ホルマリン液の中で保存された。それから全ての頭がパウル・バーテルス（Paul Bartels：ベルリンの人類学者・解剖学者）に送られた。彼が指導する博士課程の学生クリスティアン・フェッツァー（Christian Fetzer）とハインリヒ・ツァイドラー（Heinrich Zeidler）と共に、バーテルスはこれらの標本の顔の筋肉の研究を行なった。この研究の後、おそらく1913年ごろ、軟組織が取り除かれて、乾燥された頭骨がベルリン大学解剖学教室の人類学コレクションに組み入れられた。

これら18例とは対照的に、コレクションに収められた他の頭骨のほとんどは、ホルマリン漬けではな

く、乾燥頭骨としてヨーロッパに送られたと思われる。

捕えられた現地の女性がガラス片を使って頭部から肉を除去させられたとの衝撃的な証言があるが、これら18の頭骨にあてはまらない。このことは、他の事例についてそれが真実であることを除外するものではない。

これらはどのような人物だったか？

残念なことに、われわれの手元には、これらの頭骨と特定の人物とを結びつけることができる名前や他の証拠がない。当時の研究者は、民族集団に関心を抱いても、個人には関心をもっていなかった。つまり研究者にとって、名前や個人の歴史を知ることが重要でなかった。時に、ドイツに送られる遺骨に名前が添付されることがあったが、これらの事例にはあたらない。

これらの遺骨にどのような研究が行なわれたのか？

ベルリンのパウル・バーテルスに送られた頭部は、顔の筋肉の研究のために使われた。この研究は、進化に関して、アフリカ人の顔の筋肉はヨーロッパ人のそれよりも未発達であることを明らかにしようとするものであった。これは明らかに人種主義的な疑似科学であった。1920年代にこれら20体を含む人類学的頭骨コレクションは、異なった集団の頭骨を比較するためにも使われた。現在のところわれわれに言える

のは、これら 20 の頭骨はその後研究には使われず、またナチ科学者によっても使われなかったということである。

脳はどうなったのか？

今日頭骨において見て取ることができるのは、移送のいずれかの時点でほとんどのものが開かれて、脳が除去されたことである。このことは歴史的出版物によって裏づけられる。ナミビアにおいて脳が除去されたということもいくつかの（全てではない）事例について確認される。けれども除去された脳の痕跡が、われわれのコレクションにおいても、カタログにおいても、歴史的文献においても存在しない。それゆえ、なんのために脳が除去され、それら脳の標本に何が起こったのかわれわれにはわからない。

「ドイツ領南西アフリカ」からの他の頭骨と脳に関する研究報告があるが、それらの標本はコレクションから失われている。これら脳に関する研究は、既に述べた筋肉の研究と同じく人種主義的な性質のものであった。

残りの体の部位はどうなったのか？

頭骨（およびいくつかの事例では付随する脊髄）の他の骨は、われわれのコレクションに存在しない。頭部のみベルリンに送られたことが歴史的出版物で確認されるので、他の人体部位はシャークアイランド近郊で埋められたと仮定しなければなら

ない。

彼らの死因は何か？

当時の出版物ではシャークアイランドからの 18 人は「病気で」死亡したと述べられている。われわれの頭骨調査から言えることは限られている。6 例（ナマ 3 例、ヘレロ 3 例）について、われわれは壊血病（ビタミン C 欠乏、すなわち栄養失調で起こる病気）の痕跡を発見した。当時の文献でもシャークアイランドで壊血病が蔓延していたことが確認される。この病気はもちろん囚人収容所の劣悪な条件の結果である。飢餓や衰弱のような他の結果も考えられるが、頭骨調査ではそれを確認できないし、また除外することもできない。

これら頭骨には身体暴力の跡は見られないが、これによって暴行死を除外することはできない。

これら頭骨の来歴を特定するためにどのような調査方法が用いられたのか？

われわれはふたつのアプローチを用いた。ひとつは関連する情報を得るために、カタログ（目録）、公文書、当時の出版物などを調べる歴史調査である。他方で、われわれは頭骨を観察して、そこに記入された文字や貼られたラベルを読み取り、性別、年齢、病気や暴力の痕跡を探し、そしてこれらの頭骨が当時の出版物における頭骨の記載と合うかどうかを明らかにしようとした。最後に、われわれはヘレロ民族に特殊な歯の加

工の跡を探した。

ナミビア起源の遺骨がいくつかドイツにあるのか？

何体の頭骨（および他の人骨）が現在のナミビア地域からヨーロッパに送られたのかわれわれにはわからない。またいくつかの頭骨がドイツ国内のコレクションに保管されているのかもわからない。コレクションが多様（例えば博物館、大学、民間人によって所有されている）であり、かつこれらのコレクションを統括管理する中央機関が存在しないため、数の確定が難しい。

シャリテは現在も自身のコレクションを調査しており、ナミビアに由来すると思われる他の頭骨の来歴を調査中である。それらがナミビアから来たことが十分に確実だとわかれば、われわれはそれをナミビア大使館に伝えるつもりである。

（翻訳 小田博志）

アンドレアス・ヴィンケルマン博士
(Dr. Andreas Winkelmann)、シャリ
テ遺骨プロジェクト共同代表
ウェブサイトおよび連絡先
<http://anatomie.charite.de/index.php?id=29385>
または
http://anatomie.charite.de/geschichte/human_remains_projekt/